

平成三十年度  
日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式  
根本厚生労働大臣追悼のことば  
(日米再会記念碑)

日米硫黄島戦没者合同慰霊追悼顕彰式が開催されるに当たり、謹んで追悼の言葉を申し述べます。

激戦の地である、ここ、硫黄島においては、日米双方で約三万人の方々が、祖国を思い、家族を案じながら、亡くなりました。

最愛の肉親を失い、幾多の困難に見舞われながら戦後を生き抜いてこられた御遺族の御労苦は、並々ならぬものであったと推察いたします。

ここに深く、亡くなりましたの方々の御冥福をお祈りし、御遺族の皆様方に対し、心よりお見舞い申し上げます。

本年度、戦後74年を迎えます。今日我々が享受している平和と繁栄は、この地で亡くなりました多くのの方々の尊い犠牲の上に築かれたものであることを決して忘れてはなりません。

この式典を契機に、日米両国は、寛容の心、和解の力によって築きあげてきた友好の絆を更に深いものとし、先の大戦から学び取った教訓を深く心に刻み、悲惨な戦争を繰り返さないためにも、その記憶を風化させることなく、次世代に継承し、世界の恒久平和と繁栄のために一層努力することをここにお誓い申し上げます。

結びに、硫黄島において命を落とされた方々に対し、改めて心から追悼の意を表すとともに、本日の合同慰霊追悼顕彰式を主催された日米双方の硫黄島協会の皆様、そして、御遺族の皆様並びに御列席の皆様の御平安を切にお祈り申し上げます、追悼の言葉といたします。

平成三十一年三月二十三日  
厚生労働大臣 根本 匠